

# 令和6年度 始業式

令和6年4月8日

校内にも桜が舞う春爛漫の空気の中、令和6年度の始業式を行いました。

校長式辞に続いて、生徒指導部長の先生から、3つの話がありました。

1つ目は、新しい校内ルールについては勝手な解釈をせず、そのルールが目指していること、例えばスマートフォンの使用については学習や部活動で有効に活用するといった目的、服装ならば、どこへ行っても通用する容姿を心がけるという目的をきちんと理解して、守ってほしいということ。

2つ目は、「マナー」を大事にするということ。自転車や電車で通学している時に、どのようなことを心がけるべきか、また、人を嫌な気持ちにさせる言動（SNSも含めて）についても気をつけようという話でした。

3つ目は、遅刻をしないように、寝坊や準備不足等で遅れないように、しっかりと生活を正そうというお話でした。

これらの話は、1人1人がどう生きるかという、人として大事な話です。

ぜひ、安全で皆が気持ちよく学校生活を送るために、常に留意しましょう。

始業式の後、生徒会から部活動や体育祭についての話がありました。生徒会を通じて、校内の自治活動がしっかりと行われていることを嬉しく思います。

また、その後で、2、3学年とも集会を行い、学年関係教員の紹介などを行いました。担任団紹介の場面では、温かい拍手が起きていました。

どの学年もどのクラスも、皆でよい集団を作っていくてください。



# 1 学期始業式 式辞

新しい年度のスタートです。

日本の社会は4月に新たなスタートをします。学校も4月から新しい学年となります。今日から昨年とはまた違う学びがスタートします。

学校という場所で学び始めて、振り返ると、小学校から数えると2年生は1回目の新学期、3年生は12回目の4月の始業式を迎えるはずです。

小学校1年生の時のことを覚えていますか？ ピカピカの1年生、まったくの新しい世界で、ランドセルとその中に入れる教科書を「宝物」のように思えたことをこの私も覚えています。皆さんはどうでしょう。

とにかく、新年度開始のこの新鮮な気分は大事にしたいなと思います。

さきほど、新しい教科書と言いましたが、5冊、7冊、10冊？ どれくらい新しい教科書を買いましたか？

誰でもそうですが、得意な教科と苦手な教科があると思います。正直、好きな教科と好きではない教科というのものもあるかもしれません。どんな学校でもどんな高校生にもあります。

まず、好きな教科、得意な教科について言えば、どんどん伸ばしてください。あなたの武器に、自信につながります。もしかしたら将来の職業選択の1つの材料にもなるかもしれません。大学の専攻にもつながる可能性があります。

ある会社の社長さんが言っています。「好きなこと」「得意なこと」「これからの社会に必要なこと」この3つの軸が交わるところが君の将来の仕事さがしのヒントになる。進路に迷う人はそうやって考えるといいかもしれないです。

そして、苦手な教科、これは、避けていいものではありません。

あなたにかけている部分です。避けてはいけません。逃げていると、一生その分野はあなたにとって弱点分野、引け目を感じる分野、仕事でも自信をもって果たせない分野になります。

高校で学ぶ、各教科の学習は、大人として誰もが身に着けている、身に着けている前提で社会が動いている、共通語みたいなものです。誰にでも得意分野と逆に苦手分野がありますよ。でも、弱いままほったらかしにしていると、一生にウィークポイントになりますよ。もちろん、3年生になって、受験が迫ってくると受験科目の勉強に重点は置きますよ。受験科目にシフトした勉強になりますよ。しかし、要らない科目はありません。

繰り返しますが、皆さんにとって、各教科の勉強は大事です。これが基盤です。

それから、皆さんの学ぶべきことは教科の学習だけですか？

そうではありません。「困難を解決する力」、「新しいものを生み出す力」、「コミュニケーション能力」など、人としての力をつけることが大事です。

それぞれ苦手なことはあると思います。人前で話すことが苦手です。文章にまとめるのが苦手です。細かい作業が苦手です。皆さんは若い。十分に苦手から得意に変えられる可能性がある。

私は、この世で一番大きなもの、それは海でもなく、山でもなく、若い人が持つ可能性だと本気で信じています。

その可能性が、この世を発展させてきました。これからも、若い人が可能性を開花してこの世を動かしていきます。

だからこそ、今、可能性に蓋をしてはいけない。自分の可能性を開き高めるのは、しんどいけど挑戦しかない。

それは得意なことをとことん高める挑戦、苦手なことを克服する挑戦、そして、それ以外の、目の前の壁や困難、難しいチャレンジ。試験、資格取得、大会、コンクール、日常でも、チャレンジを、チャンスだと思って、挑戦する。一度失敗しても努力して乗り越える。

ユニクロ創業者の柳井 正さんがこのようなことを述べています。

人生で一番悔いが残るのは挑戦しなかったことです。新しい可能性に挑んで失敗したことではありません。

若い君たちに贈りたい言葉です。

得意なことや好きなことは得意技、武器になるよう徹底的に高め、苦手なことは自分にかけているが社会には必要なこと、自分の可能性を信じて克服し、そして、大いなるチャレンジをしよう。

まずは、新しいクラスでいい集団を作ろう。そして新しい学びにしっかり取り組もう。そして、加えて、進路実現において、部活動においてなど、皆さんの挑戦と飛躍を期待しています。